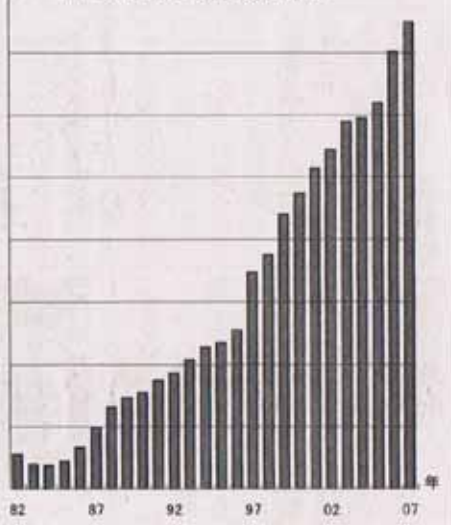


拡大に加え、750cc以上の大型二輪車ではH-D車のシェアは過去最高の31.9%に達したという。また、401cc以上の市場でも25%のシェアを獲得し、名柄別ではトップになったとしている。

ただ、同社では販売台数やシェア獲得などの数値的な指標をねらうものではないとした上で、安全・安心、信頼の下で顧客視点に立った「H-Dのあるライフスタイル」を提供し訴求してきたなどの結果、功を奏して登録台数の拡大につながったものとしている。

また、購入者については、世間一般的に、パワーブランドはユーザー平均年齢が加は新規需要の創出で支えられていることや、女性ユーザー比率は全体の8.5%に高まり、「再購入意向」では95%などとしており、「顧客満足度の向上」でも満足度は96%に達し高い位置を示しているという。今後同社では、総合的にH-Dのライフスタイル・マーケティングの実践に取り組むとしている。

H-D車の登録台数(単位:千台)



ウラルサイドカーを輸入

日本「ウラル・ジャパン」が誕生

ロシア製のサイドカーとして顕著なイメージで親しまれている「ウラル」を輸入する日本法人「ウラル・ジャパン」が、07年12月1日に設立された。



ヒスクノーフ社長とオレシーヤ・マネージャー

2月3日には、新会社の準備が整ったとして、試乗車も用意してオープンハウスを開催した。当日は、雪にもめげず、多数の来客をみた。ミハイル・ヒスクノーフ社長の流暢な日本語での挨拶、マーケティングマネージャーのリャチェンコ・オレーシャさんの日本人よりの正しい敬語を駆使しての新会社の紹介もあって、新しい出発に関係者も熱いエールを送っていた。

同社は、日本およびアジア地域へウラルを販売する基地として設立されたもので、資本金は500万円。当面は日本国内への輸入とマーケティングリサーチ、販売網・サービスマネジメントを中心とするという。販売目標は年間1500台を目指すという。

ウラルは、もともとはソ連軍が第二次大戦でBMWをベースに製作した軍用サイドカーで、41年にモスクワ郊外で造られた。空襲を恐れ、ウラル山脈近くのウラル連邦管区スベルドロフスク州イルビトに工場を移しウラルの名称もつけられたという。

ソ連時代にはあまり輸出に積極的ではなかったが、ロシア連邦となり、メーカーのIMZ社も3年前に組織が変わり、品質も安定、排ガス対策などにも積極的に対応し、米国、ニュージーランドなどを中心に、全世界で300万台が輸出されているという。高価と思われがちだがサイドカーだが、生産の主体がサイドカーという変わったメーカーだけに、比較的リーズナブルな価格で販売されている。

なお、国内の総販売元となるサクマ・エンジニアリングの佐久間社長は品質などについて、98年から10年あまりウラルに携わってきたが、国内ではなかなか良さがわかってもらえなかった。このほど輸入されたモデルは日本製のパーツも多く採用されており、格段に良くなっている。サイドカーという乗り物に触れるのに最適なモデルと思うので



2WDのウラル・バトロール

1ランドなどを中心に、全世界で300万台が輸出されているという。高価と思われがちだがサイドカーだが、生産の主体がサイドカーという変わったメーカーだけに、比較的リーズナブルな価格で販売されている。



サクマ・エンジニアリングの佐久間社長

楽しんでもらいたい」と語ってくれた。

国内には、サイドカー側を駆動する2WDと、そうでないモデルが輸入されるが、2WDは普通自動車免許で、1WDは大型自動車免許で運転することとなる。

2WDでは「バトロール」(従来のスポーツマン)が車両130万5000円+組立調整費12万6000円+予備検査費3万1500円の146万2500円、また1WDの「ツォリス」が車両118万5000円+組立調整費13万4000円+予備検査費3万000円となる。

▽ウラル・ジャパン 東京都新宿区戸山1-15-8 03・6802・3933